

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立八幡浜高等学校

学校番号 (3 4)

評 価 実 施 日		令和 8 年 2 月 2 6 日 (木)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	幸田裕司	(一社)愛媛県ネットワーク協会 メンタル・トレーナー地域代表	
	村上 剛	八幡浜市立保内中学校長	
	中井貴一	(株)中井建設	
	井上 隆	P T A 会長	
	福岡勝也	P T A 顧問	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
今年度の最終評価について (1) 学習指導 生徒の理解度及び学習意欲や教員の研修・研究授業への参加割合が向上するなど成果が表れている。さらに、学習指導の工夫や実践が、客観的な数値でどのように向上しているかを分析し、生徒や保護者から選ばれる学校を目指していただきたい。その際、時代と共に変えるべきものと変えてはならないものを適切に判断していただきたい。	・教員の各種研修への参加の効果をどのように図るかという提言に関して、対外模試の結果の数値や進学実績などで検証し、学校評価アンケートの生徒や保護者の満足度で明らかにしていきたい。 ・学習指導及び評価方法の研究・実践を継続し、指導と評価の一体化を図っていくと同時に、多様な生徒に対して適切な指導ができるように努力していきたい。
(2) 生徒指導 道路交通法により、自転車に関しても違反に対する罰則が厳しく適応されることになるので、予告なしで街頭指導を行うなどの教育を今一度、徹底していただきたい。 様々な地域行事に関して、高校生にボランティア活動に積極的に参加いただきたいが、どのような募集の在り方が、有効であるか、教えていただきたい。これまで通り、本校生徒のボランティア活動を推進していただきたい。	・令和8年4月1日から16歳以上の自転車に対し、自動車と同様に「交通反則通告制度」いわゆる「青切符」が適用されるため、特に「ながら運転」や「信号無視」といった行為は自他ともに命に係わる重大な交通違反であることを周知徹底していきたい。 ・年度当初に全校生徒を対象にボランティア活動に関する説明や定期的なボランティアの募集も随時実施しながら、生徒が主体的に参加できるよう広報等の充実も図りたい。

(3) 進路指導 今年度の進学や就職の状況は、順調にきているようである。可能な限り、地元企業への就職について情報提供していただきたい。 進路指導は、重責であるため先生方の過重な労働が、心配である。業者の支援システムなど導入で負担軽減を必要ではないか。	・インターンシップや企業説明会等を通して、地元企業への関心を高めるよう引き続き努力したい。 ・来年度はベネッセ社の「グロースナビ」を導入することで、生徒に進路や探究活動への意欲を高めるとともに、教員の負担軽減を図りたい。
(4) 健康・環境 計画通りに施設改修が行われており、新校開設に向けた準備を着実にお願いしたい。 環境の安全と校内美化は、大人たちで完結するのではなく、使用している生徒たちも巻き込み、教育の一環としてとらえていただきたい。	・施設設備の改修が進むにつれて、校内美化に対する意識の高まりが学校全体に見られるようになった。今後は、生徒会の環境委員会や保健委員会の活動を一層活性化させ、学校全体でより良い教育環境の整備・充実を推進していきたい。また、新校開設に向けて改修工事が行われているため、安全管理に十分配慮し、円滑な教育活動の実施に努めたい。
(5) 図書・情報 デジタル化の進展により、本に親しむ機会が減っており、従来の目標では、時代に合わなくなっている。思い切った目標の見直しが必要ではないか。 一人一台端末の利用状況など情報企画課の目標は、十分達成できている。	・更なる改善を目指し、教師・生徒がアップデートできる教育環境・支援の充実に努めていきたい。その為にも個別最適な学びの実現に向けて教材（コンテンツ）活用方法の研究を進路課などと連携した実践を図りたい。 ・読書を推奨するという従来の目標から、次年度は図書館教育の充実に目標を変更し、令和の時代に合った図書館利用を推進していきたい。
(6) 人権・同和教育 ジェンダー、外国人など、時代の変化と共に、様々な立場の人と接する機会が増え、互いを尊重する意識が重要となっている。授業の中で生徒が主体的に活動し、学べる教育を推進していただきたい。	・部落差別の解消についての学習を忘れることなく、様々な立場の方にもスポットを当てて人権感覚を養う学びの場を設定したい。教師主導ではなく、生徒が自身の考えや心情を自主的に発言できるような授業を展開していきたい。
(7) 業務改善 教員の業務の削減、勤務時間の適正化が、喫緊の課題である。業務改善の体制を整え、個人個人に合わせたサポートをし、働きやすい環境にしていきたい。	・個人の業務量を十分に把握し、全体の業務量の見直しと平準化に向けた取組を行っていききたい。 ・令和8年度からの新校では学科数が増え多様な生徒を指導するため、教員間の情報共有を密にすることにより、教職員にとって働きがいのある環境の実現を図っていききたい。